



## 2021年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2021年5月14日

上場会社名 福留八ム株式会社  
コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦  
問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠 TEL 082-278-6161  
定時株主総会開催予定日 2021年6月23日 有価証券報告書提出予定日 2021年6月24日

配当支払開始予定日  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期の連結業績(2020年4月1日～2021年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	25,326	1.1	243		169		240	
2020年3月期	25,597	0.5	536		490		1,404	

(注) 包括利益 2021年3月期 226百万円 ( %) 2020年3月期 1,739百万円 ( %)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年3月期	71.93		5.7	1.1	1.0
2020年3月期	420.93		28.0	2.9	2.1

(参考) 持分法投資損益 2021年3月期 百万円 2020年3月期 百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期	15,853	4,348	27.4	1,302.89
2020年3月期	15,462	4,122	26.7	1,235.15

(参考) 自己資本 2021年3月期 4,347百万円 2020年3月期 4,121百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年3月期	349	290	64	2,515
2020年3月期	260	352	254	2,392

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年3月期		0.00		0.00	0.00	0		
2021年3月期		0.00		0.00	0.00	0		
2022年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,550	0.2	45		65		70		20.98
通期	25,500	0.7	100		140		100		29.97

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 以外の会計方針の変更 : 無  
 会計上の見積りの変更 : 無  
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期	3,400,000 株	2020年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2021年3月期	62,986 株	2020年3月期	62,932 株
期中平均株式数	2021年3月期	3,337,058 株	2020年3月期	3,337,146 株

(参考) 個別業績の概要

2021年3月期の個別業績(2020年4月1日～2021年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	25,326	1.1	228		148		217	
2020年3月期	25,597	0.5	535		475		1,092	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期	65.29	
2020年3月期	327.26	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
2021年3月期	15,847		4,348		27.4		1,303.22	
2020年3月期	15,431		4,151		26.9		1,244.12	

(参考) 自己資本 2021年3月期 4,348百万円 2020年3月期 4,151百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	1
(1) 当期の経営成績の概況 .....	1
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	2
(4) 今後の見通し .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	3
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 連結貸借対照表 .....	4
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	6
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(1株当たり情報) .....	12
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度(2020年4月1日～2021年3月31日)におけるわが国経済は、拡大する新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、企業・経済活動が大きく制限され非常に厳しい状況となりました。政府による各種政策の効果もあり、一部持ち直しの動きがみられたものの、感染症拡大の脅威は続いており、まん延防止等重点措置の適用や2021年1月には2度目の緊急事態宣言の発令がされるなど依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、感染拡大に伴う消費行動や市場構造に変化が生じ、「巣ごもり消費」と称されるような内食需要が活発化する一方、新型コロナウイルス感染者拡大に伴う営業自粛要請による外食需要の低迷で業務用商品が苦戦している状況は続いており、先行きへの不安からくる消費者の低価格・節約志向は厳しさを増し、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、あふれる味覚をもってお客様から選ばれ続ける存在となるべく努めてまいりました。新型コロナウイルス感染症対策としましては、従業員及び関係者の健康と安全を守ることを最優先とし、「FRA(福留ハム・リスクマネジメント・アクション)委員会」を適宜開催し、オフィスの分散化や衛生管理、さらにはリモート会議の活用など感染拡大防止策の強化を図り、事業リスクの最小化や事業活動の継続に取り組んでまいりました。また、今期を初年度とした「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」を策定し、初年度においては、「競争力向上のためのコスト構造改革」を重点施策として、最適な資源配分と業務の効率化、無駄の排除を通じた筋肉質なコスト構造への転換を進めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、253億26百万円(前年同期比1.1%減)となりました。利益につきましては、営業損失は2億43百万円(前年同期は営業損失5億36百万円)、経常損失は1億69百万円(前年同期は経常損失4億90百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失は減損損失36百万円等の特別損失の計上により2億40百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失14億4百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業におきましては、リニューアルした「花ソーセージ」のCM放映に加え、「岡山昴工場1周年記念キャンペーン」を実施し、販売強化を図ってまいりました。売上高は、外食向け業務用商品が減少したものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う内食需要の高まりをうけ、「JAS上級あらびきポークウインナー」や「JAS特級あらびきポークウインナー」、昨年発売いたしました「あらびきKING」などのウインナー類や新商品「チーズ入り花ソーセージ」「花ソーセージ辛口風味」とバリエーションを増やしたオリジナル商品「花ソーセージ」シリーズなどのソーセージ類が好調に推移いたしました。また、「肉厚ハンバーグ」シリーズや「炭火焼きハンバーグ」などのハンバーグ類におきましても、量販店向けの販売が好調に推移いたしました。さらには、コロナ禍の中、個別企業様向けプレゼンテーションを推進し、新商品・リニューアル商品の販促に取り組んだことなどにより、売上高は増加いたしました。利益面につきましても、歳末商戦において、家庭内用需要での「ハンバーグギフト」などが好調に推移したことなどに加え、生産性の改善や動力費、広告宣伝費等のコスト削減努力により増加いたしました。

その結果、売上高は114億86百万円(前年同期比2.0%増)、セグメント利益(営業利益)は5億4百万円(前年同期比143.2%増)となりました。

#### 食肉事業

食肉事業につきましては、内食需要の増大により国産豚肉の需要は増えたものの、外食需要は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により依然として低迷しており、食肉事業全体の取扱量は減少いたしました。売上高につきましては、国産豚肉は堅調に推移したものの、国産牛肉は外食事業の低迷や牛肉相場が大きく値を下げたことによる売上単価の低下により低調に推移したことや採算重視の販売に努めたことなどにより前年同期を下回りました。利益面につきましては、仕入の見直し、在庫の適正管理による余剰在庫の削減、コスト削減等に取り組んだものの、国産豚肉相場の上昇に伴う仕入コストの増大や輸入牛肉・輸入豚肉における入船遅れの影響等による物流費の上昇などにより前年同期を下回りました。

その結果、売上高は138億39百万円(前年同期比3.5%減)、セグメント損失(営業損失)は2億8百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)1億80百万円)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産の部)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億90百万円増加の158億53百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ79百万円減少の62億90百万円となりました。主な要因は、現金及び預金1億23百万円の増加と商品及び製品1億17百万円、原材料及び貯蔵品64百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ4億69百万円増加の95億63百万円となりました。主な要因は、投資有価証券6億6百万円の増加と建物及び構築物1億64百万円、機械装置及び運搬具90百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億64百万円増加の115億4百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ5億97百万円減少の70億8百万円となりました。主な要因は、短期借入金5億29百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ7億61百万円増加の44億95百万円となりました。主な要因は、長期借入金6億60百万円、繰延税金負債1億79百万円の増加と退職給付に係る負債1億40百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億25百万円増加の43億48百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金4億15百万円の増加と利益剰余金2億40百万円の減少によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1億23百万円増加の25億15百万円(前連結会計年度比5.1%増)となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3億49百万円(前連結会計年度は2億60百万円の資金獲得)となりました。主な要因は、減価償却費5億36百万円と税金等調整前当期純損失2億14百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2億90百万円(前連結会計年度は3億52百万円の資金使用)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出2億34百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、64百万円(前連結会計年度は2億54百万円の資金使用)となりました。主な要因は、長期借入による収入10億円と長期借入の返済による支出3億58百万円、短期借入金の減少額5億10百万円及びリース債務の返済による支出66百万円によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
自己資本比率 (%)	36.6	38.2	33.2	26.7	27.4
時価ベースの自己資本比率 (%)	42.8	45.1	42.2	40.5	42.7
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	7.1	12.9	—	23.0	17.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	10.2	6.2	0.0	3.5	5.2

自己資本比率 : 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー/利払い

- (注) 1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。  
 2. 「株式時価総額」は、(期末株価終値) × (期末発行済株式数) により算出しております。  
 3. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。  
 4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象にしております。  
 5. 利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

#### (4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されたものの、引き続き新型コロナウイルスの影響は継続し、景気の下振れリスクや国内外の情勢動向など、依然として先行き不透明な経営環境が続くと予想されます。

当業界におきましても、原材料費等の製造コストの上昇やコロナ禍での消費者の購買行動の多様化など課題は多岐に渡っております。

このような状況の中、当社グループは、「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」の中間年度にあたり、「消費者ニーズにあった新たな商品開発と販売戦略の構築と実行」と位置づけ、以下の三点に取り組んでまいります。

##### 1 商品開発力の強化

食品メーカーとして、マーケティング活動を強化し、消費者ニーズを把握する中、既存商品のブラッシュアップと新商品開発により商品付加価値を高め、消費者から選ばれ続ける商品造りに注力してまいります。

##### 2 販売戦略の構築と実行

商品戦略・取引先戦略・チャネル別戦略・エリア別戦略、等の販売戦略を明確かつ工夫し、高単価での販売と販売数の増加に積極的に取り組んでまいります。

##### 3 新規市場へのチャレンジ

業務用(中食・外食向け)市場、ギフト市場、ネット市場等の新市場のシェア拡大に向けたチャレンジをスタートさせて、ブランド戦略と併せてビジネスモデルを構築してまいります。

次期の業績につきましては、売上高255億円(前年同期比0.7%増)、営業利益1億円(前年同期は営業損失2億43百万円)、経常利益1億40百万円(前年同期は経常損失1億69百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は1億円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失2億40百万円)を見込んでおります。なお、2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用いたします。

新型コロナウイルス感染症の収束時期や消費動向の見通しなど、先行き不透明な状況であり、業績予想につきましては、現時点において当社グループが把握している情報を基に軽微と見込んで算出しており、今後も大きく変動する可能性があるため、業績動向を踏まえ、修正がある場合には速やかに開示いたします。

#### 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、今後のIFRS適用については、国内の動向等を踏まえ、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,512	2,635
受取手形及び売掛金	2,463	2,443
商品及び製品	1,050	932
仕掛品	48	45
原材料及び貯蔵品	267	203
前払費用	23	20
その他	5	10
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,369	6,290
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,957	2,792
機械装置及び運搬具（純額）	975	884
土地	3,003	3,003
リース資産（純額）	127	157
建設仮勘定	-	11
その他（純額）	68	50
有形固定資産合計	7,133	6,900
無形固定資産		
電話加入権	21	21
リース資産	-	73
その他	9	48
無形固定資産合計	30	142
投資その他の資産		
投資有価証券	1,699	2,305
出資金	42	42
敷金及び保証金	90	89
保険積立金	34	34
その他	203	200
貸倒引当金	△140	△152
投資その他の資産合計	1,929	2,519
固定資産合計	9,093	9,563
資産合計	15,462	15,853

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,075	2,074
短期借入金	4,623	4,094
リース債務	57	68
未払金	507	427
未払費用	85	85
未払法人税等	43	41
賞与引当金	165	159
その他	45	57
流動負債合計	7,605	7,008
固定負債		
長期借入金	1,372	2,033
リース債務	75	167
役員退職慰労引当金	353	324
退職給付に係る負債	1,754	1,614
繰延税金負債	139	318
その他	38	38
固定負債合計	3,734	4,495
負債合計	11,340	11,504
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△298	△538
自己株式	△80	△80
株主資本合計	3,815	3,575
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	373	788
退職給付に係る調整累計額	△67	△16
その他の包括利益累計額合計	305	772
非支配株主持分	0	0
純資産合計	4,122	4,348
負債純資産合計	15,462	15,853



(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	25,597	25,326
売上原価	21,371	20,896
売上総利益	4,225	4,430
販売費及び一般管理費	4,762	4,673
営業損失(△)	△536	△243
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	40	42
不動産賃貸料	59	58
補助金収入	-	44
その他	44	29
営業外収益合計	143	174
営業外費用		
支払利息	69	66
不動産賃貸費用	24	28
その他	3	4
営業外費用合計	97	100
経常損失(△)	△490	△169
特別利益		
有形固定資産売却益	127	-
特別利益合計	127	-
特別損失		
減損損失	426	36
解体撤去費用	-	9
投資有価証券評価損	30	-
特別損失合計	457	45
税金等調整前当期純損失(△)	△820	△214
法人税、住民税及び事業税	26	25
法人税等調整額	557	-
法人税等合計	583	25
当期純損失(△)	△1,404	△240
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△1,404	△240

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
当期純損失(△)	△1,404	△240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△333	415
退職給付に係る調整額	△1	51
その他の包括利益合計	△335	466
包括利益	△1,739	226
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△1,739	226
非支配株主に係る包括利益	△0	0

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	2,691	1,503	1,155	△80	5,270	707	△65	641	0	5,912
当期変動額										
剰余金の配当			△50		△50					△50
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△1,404		△1,404					△1,404
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)						△333	△1	△335	△0	△335
当期変動額合計	-	-	△1,454	△0	△1,455	△333	△1	△335	△0	△1,790
当期末残高	2,691	1,503	△298	△80	3,815	373	△67	305	0	4,122

当連結会計年度(自2020年4月1日 至2021年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	2,691	1,503	△298	△80	3,815	373	△67	305	0	4,122
当期変動額										
剰余金の配当			-		-					-
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△240		△240					△240
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)						415	51	466	0	466
当期変動額合計	-	-	△240	△0	△240	415	51	466	0	225
当期末残高	2,691	1,503	△538	△80	3,575	788	△16	772	0	4,348

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失(△)	△820	△214
減価償却費	574	536
減損損失	426	36
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	20	△29
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22	12
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△56	△89
受取利息	△0	△0
受取配当金	△40	△42
補助金収入	-	△44
支払利息	69	66
解体撤去費用	-	9
有形固定資産売却損益(△は益)	△127	-
投資有価証券評価損益(△は益)	30	-
売上債権の増減額(△は増加)	489	19
たな卸資産の増減額(△は増加)	△80	184
仕入債務の増減額(△は減少)	△224	△34
その他	64	△47
小計	302	362
利息及び配当金の受取額	40	42
利息の支払額	△73	△67
補助金の受取額	-	44
法人税等の支払額	△9	△33
営業活動によるキャッシュ・フロー	260	349
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△651	△234
有形固定資産の売却による収入	321	-
投資有価証券の取得による支出	△11	△12
投資有価証券の売却による収入	-	0
無形固定資産の取得による支出	△11	△45
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△352	△290
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△10	△510
長期借入れによる収入	300	1,000
長期借入金の返済による支出	△397	△358
リース債務の返済による支出	△96	△66
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△50	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△254	64
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△346	123
現金及び現金同等物の期首残高	2,738	2,392
現金及び現金同等物の期末残高	2,392	2,515

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、商品及び提供するサービスについて包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。従って、事業部を基礎とした商品及び提供するサービス別セグメントから構成されており、「加工食品事業」及び「食肉事業」の2つを報告セグメントとしております。

「加工食品事業」は、主にハム・ソーセージ・加工食品の製造及び販売を主な事業としており、「食肉事業」は、主に食肉の生産及び販売を主な事業としております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	11,258	14,338	25,597
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	11,258	14,338	25,597
セグメント利益又は損失(△)	207	△180	27
セグメント資産	6,858	3,082	9,940
その他の項目			
減価償却費	467	77	544
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	447	18	466

当連結会計年度(自2020年4月1日 至2021年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	11,486	13,839	25,326
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	11,486	13,839	25,326
セグメント利益又は損失(△)	504	△208	296
セグメント資産	6,563	2,837	9,400
その他の項目			
減価償却費	429	68	498
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	200	18	219

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	27	296
全社費用(注)	△563	△539
連結財務諸表の営業損失(△)	△536	△243

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	9,940	9,400
全社資産(注)	5,522	6,453
連結財務諸表の資産合計	15,462	15,853

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社建物等であります。

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	544	498	19	23	564	521
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	466	219	14	220	481	439

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門に係る設備投資額であります。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める特定の顧客への売上高がないため、記載は省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	加工食品事業	食肉事業	計		
減損損失	51	375	426	—	426

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	加工食品事業	食肉事業	計		
減損損失	3	32	36	—	36

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり純資産額	1,235.15円	1,302.89円
1株当たり当期純損失(△)(円)	△420.93円	△71.93円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失(△)(百万円)	△1,404	△240
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(百万円)	△1,404	△240
普通株式の期中平均株式数(株)	3,337,146	3,337,058

(重要な後発事象)

該当事項はありません。